

# 私を形作るもの

佐賀県

剣心館

小学5年

足立花音

「なぜ剣道をやっているの？」友達から聞かれて考えたが、物心ついた時から私の生活の中心にはいつも剣道があったので、私も当たり前のように剣道をやっていた。ただそれだけだった。幼稚園からの友達もいたし、それなりに楽しかったので辛いとも辞めたいとも思わなかった。そんな私の気持ちに変化が現れたのは四年生になった頃だった。

クラスの友達がバスケットやバレーボールなどのスポーツを始める中、剣道をしていることに恥ずかしさを覚えるようになったのだ。同じ学校に剣道を習っている女子が少なくて、友達との会話の中で話題にのぼることもないし、ファッションや絵を描くことに興味が出てきた私にとって全身黒コーデスタイルというのも、モチベーションが上がらない原因の一つになった。そうすると、日々の稽古に行くのも気分がのらないし、嫌々行っただとしても稽古に身が入らず先生に注意されるしでますますやる気が失せていく一方。夏は暑い中面をつけなければならないし、冬は薄着で裸足でとにかく寒い。初めて「辞めたい」と思ってしまった。しかし、そんな私の考えを改めさせる出来事が起こった。

その年、コロナウイルスの影響で様々な試合が中止になる中、唯一開催された学年別個人戦。稽古もままならない中だったが、それは自分だけではなく他の子も同じだからもしかしたら勝ち進めるかもと侮っていた。一回戦はなんとか勝ったものの、二回戦で敗退。剣道だけでなく明らかに気持ちでも負けていた。勝ちたいという思いの強さが全然違うというのが戦っていてヒシヒシと伝わってくる。勝てるかもしれないと思った自分を恥ずかしく思うと同時に悔しくて悔しくて涙が止まらない。友達が励ましてくれるが耳に入ってこない。なんでこんなに涙が出るんだろう…なんでこんなに悔しんだろう…そう思ったとき、自分で思っている以上に剣道は自分の生活の一部になっていて、剣道が決して嫌いというわけではないのだと気づいた。

それ以降私の中で考えが一変し、剣道をしていて良かったことに目を向けることが増えた。例えば見知らぬ人にも自然とあいさつができるので「ちゃんとあいさつできてえらいね」と言われたり、朝稽古帰りの私のすがたを見て近所の方から「朝からお疲れ様！道着すがたかっこいいね」と言われてうれしかった。礼ぎ作法が身につけているのは剣道のおかげだし、周りに剣道をやっている人が少ないからこそ剣道着すがたが目立つんだと思ったら、少しほこらしい気持ちになった。それに何よりも、力の弱い女子でも、頭を使ったり技の精度をみがくことで男子に勝てる競技であるというのも剣道のおもしろさであり、魅力だと思ふ。

試合で負けたら悔しくて涙が出る。一試合でも多く試合がしたいと思ったあの気持ちにうそはない。勝ちたいから、一般の稽古会にも参加して多くの先生方に指導をしていただいた。それに仲良し女子三人組と一緒に稽古をする日々も大事だし、楽しいことも辛いことも一緒に経験して乗り越えてきた。いつも一番近くで応援してくれて、負けたことよりも頑張ったことをほめてくれるような両親にも本当に感謝している。私の人生がこんなに楽しくて豊かなのは、実は剣道をしているからなのかもしれない。家族・学校・友達・そして剣道…私を形作る様々なものとともに、これからも充実した日々を送りたい。